

## 2 - 2 重点事業評価

事業名

電子図書館サービスの充実

### (1) 事業の概要

#### ● 対象

図書館に直接来館する利用者だけではなく、距離的理由や身体的理由などにより、来館が困難な利用者。

#### ● 意図・目的

当館独自データベースの拡充などの情報基盤の整備によって、情報利用の利便性と効率性を向上させ、多様化・高度化する利用者ニーズに応えるとともに、県立図書館のサービスを「だれでも」「いつでも」「どこからでも」利用できることを目的として、電子図書館の環境整備に努める。

#### ● 具体的取組の概要

「越後佐渡デジタルライブラリー」による新潟県関係歴史資料のデジタル化とホームページ上での公開を推進するとともに、調査補助ツールである「郷土人物／雑誌記事索引データベース」などの独自データベース登録件数を増加させ、情報基盤の更なる充実を図る。また、音楽ライブラリーを継続し、「電子書籍」の導入については、時代や利用者のニーズも考慮に入れ、改めて検討する。

### (2) 指標（本年度の目標）

項目（指標）	本年度の達成目標（数値）	成果
越後佐渡デジタルライブラリー 参加館数（参加自治体）	12館（12市町村）	15館（13市町村） *追加撮影:238点、7,307画像

（平成25年度実績：11館・11市町村）

### (3) 事業評価（自己評価）

自己評価	AA（達成率125%）	今年度は追加撮影継続館が4館、新規参加館が4館であった。市町村でのデジタル化の重要性への認知が拡がり、目標を大きく上回る結果となった。
------	-------------	---

AA 目標が十分に達成された。 A 目標が達成された。  
B 目標に今一步及ばなかった。 C 目標を達成できなかった。

項目	項目の解説	状況
必要性	利用者ニーズまたは図書館の使命や方針に照らして、妥当か。	新潟県関係歴史資料のデジタル化とインターネットによる公開は、遠隔地在住の県民や、研究者のニーズに応えるものであり、県立図書館の使命のひとつである新潟県関係資料の保存と提供及び市町村支援の観点から、必要性は妥当と考えられる。
有効性	期待される成果と実際の成果との関係。実績の向上がみられたか。	新たに新潟市立新津図書館、十日町市博物館、上越市公文書センター、北方文化博物館が参加した。資料数もさることながら、多様な貴重資料をデジタル化することができた。 アクセス数（ログによる参考値）は今年度1日平均4,791件となり、前年度に比べ228件増加し、利用実績の向上がみられた。
効率性	事業計画に対する内容や量、業務の運び方、進捗管理の妥当性等。	デジタル化の対象を原則として紙媒体とし、資料形態や形状ごとに作業することで、作業効率を上げ、市町村の要望に可能な限り応えている。また次世代職員の育成にも取り組み、ノウハウの蓄積と継承に努めている。

### (4) 次年度の展開

方向性・問題点・改善点など	今後も継続して当館及び県内市町村図書館等の貴重資料のデジタル化を進め、音楽配信サービスの普及を図ることにより、電子図書館の環境整備に努めたい。 有料の電子書籍については、図書館での展開に問題があるため導入できないが、3月にホームページの「電子書籍欄」で無料サイト「青空文庫」をリンクし、電子書籍利用の利便を図る予定である。今後わすかずつでも、できることから電子書籍の提供を進めていきたい。 戦前の郷土新聞のデジタル化は平成28年度に終了予定である。今後、館内閲覧環境の整備や県内市町村図書館への提供について、検討していきたい。
---------------	---

#### (5) 図書館協議会意見

「越後佐渡デジタルライブラリー」の取り組みは、新潟県の文化的資産を構築するうえで、また、県立図書館の機能の一つである市町村支援という観点からも、極めて意義深いものである。さらに、参加館（自治体）数の増加、及び、アクセス数（ログによる参考値）の大幅な増加は、この取り組みに対する社会的な期待の高さを表すものと捉えることができる。従って、今後とも着実に実施されることが強く望まれる。ただし、撮影にかかる労力や予算等を考慮しつつ、計画的に進める必要があると考える。例えば、すでに活字化されている資料は後回しにするなど、優先順位を設定することも一案として考えられる。

システム上の制約により、トップページを経由せずに直接「越後佐渡デジタルライブラリー」や「横断検索」等のページにアクセスされた件数は把握できない状況にある。従って「基礎的サービス評価」においては「HP（トップページ）アクセス件数」を指標とせざるを得ず、必ずしも電子図書館サービスの全般的な利用実態に対する評価結果であるとはいえない。抜本的な解決策はシステムの改善であるが、現行システムの限りにおいては、本指標を参考程度のものという位置づけに留めるか、全般的なアクセス状況が把握できるような、より妥当な指標に改めるかという判断が必要である。少なくとも可能な限りの参考値の提示を求めたい。

電子書籍に関する「青空文庫」へのリンクは、図書館の蔵書を補完する意味合いからも、図書館サービスの充実に大きく貢献するものと評価される。

今後とも、図書館から遠隔地に居住する県民が、手軽に情報を入手でき、楽しみ、満足できるようなサービスの充実に期待する。